バス市訪問団が市民と交流を深める　訪問団13人がつがる市にホームステイ

福島市長を訪問したバス市訪問団一行

7月19日から29日までの11日間、バス市訪問団13人がつがる市に滞在し、ホームステイや文化体験などを通して友好を深めました。

23日、一行は福島市長を訪問。ショーン・ポーラス市議会副議長が「自国の文化を理解するためには異文化を認めることが大切。交流や信頼関係を深める機会に感謝し、両市の関係がさらに発展することを祈ります」とあいさつを述べ、お互いに記念品を交換しました。

滞在中は、木造高校や稲垣中学校で文化体験を行ったり、メロンの収穫体験やネブタ祭りにも参加。ホストファミリーらと相互理解を深めながら、つがる市の夏を満喫しました。

木造高校で弓道を体験

ホストファミリーとバーベキュー交流

ウエルカムパーティで親睦を深める

姉妹都市の歴史や文化を学ぶ　北海道白老町の歴史にふれる旅

アイヌ民族博物館で記念撮影

竹を削ってアイヌの民族楽器ムックリの製作を体験

姉妹都市の北海道白老町の歴史や文化に触れる「白老歴史にふれる旅」に市内の小学５年生56人が８月１日から３日の日程で参加し、姉妹都市について見聞を広めました。

児童たちは、仙台藩元陣屋跡で白老町の歴史を学び、アイヌ民族博物館「ポロトコタン」で舞踊や口琴（ムックリ）作りなどアイヌ文化を体験。ポロトの森では、白老町の小中学生児童と一緒にゲームやバーベキュー、キャンプファイヤーを行い、お互いの交流を深めました。

大舞台での抱負を語る

柔道 小山内剣太郎君(向陽小)

福島市長に全国大会出場報告する小山内君(中央)

第９回全国小学生学年別柔道大会青森県予選会で小山内剣太郎君（向陽小６年･五所川原柔道少年団）が６年生男子50キロ級で優勝を果たし、鹿児島市で行われる全国大会に出場します。道場の主将も務める小山内君は「小学生の大会では青森県から日本一は出てないので、初の優勝を狙っていきたい」と力強く目標を話しました。

剣道 木造剣礼会

木造剣礼会のメンバー(前列)

木造剣礼会が、日本武道館で行われる第47回全日本少年剣道錬成大会の小学生団体の部の出場を決め、松本逸聖君（向陽小６年）、中野竜希君（瑞穂小６年）、野呂哉太君（向陽小６年）、野呂雛夕さん（同小６年）、田中凛君（同小６年）の出場メンバーが福島市長へ報告。主将の松本君は「皆で力を合わせて優勝を目指して頑張ります」と意気込みを語りました。

バレーボール 全日本バレー小学生大会に稲垣男女アベック出場、稲中男女は東北大会へ

稲垣少年クラブと稲垣ジュニアクラブが県大会で優勝し、全日本バレーボール小学生大会（川崎市主会場）に、稲垣中学校バレーボール部は県大会で男子が優勝、女子が準優勝の成績を収め、東北中学校バレーボール選手権大会（青森市）へそれぞれ出場を決めました。

稲垣少年クラブの加賀田晃河君は「持ってる力を出し切る」、稲垣ジュニアクラブの常川樹さんは「一つ一つのプレーを大事にする」、中学校男子の工藤颯君は「悔いの残らないよう頑張る」、境紗里奈さんは「一つでも多く勝って全国大会を目指す」と力強く抱負を語りました。

稲垣少年クラブ(左)、稲垣ジュニアクラブ(右)の選手たち

稲垣中学校男女バレーボール部の選手たち

木造中が団体２連覇 旭富士杯県下小中学校相撲大会

県内の小中学生24チーム約120人が参加した第８回旭富士杯争奪県下小学校・中学校相撲大会が８月５日、つがる地球村スポーツパーク相撲場で開催されました。

選手たちは団体、個人戦で日頃鍛えた力と技をぶつけ合い、手に汗握る熱戦を繰り広げ、会場に駆け付けた父母らが土俵上の取り組みに大きな声援を送っていました。

大会の結果、中学生団体は木造中学校Ａ〔石森大誠君（３年)、越後谷知樹君（２年)、石岡弥輝也君（１年)〕が優勝に輝きました。

土俵上で熱戦を繰り広げる選手たち

一戸鉄四郎さん100歳長寿おめでとう

一戸鉄四郎さん(木造兼館)が８月１日、めでたく満100歳の誕生日を迎え、長寿を祝いました。

一戸さんは、大正元年生まれで農業を営み、子２人、孫４人、ひ孫４人に恵まれました。現在は、社会福祉協議会の在宅介護支援を受けながら自宅で暮らし、新聞を隅々まで読むのが日課とのことです。顕彰式には、長女の神嘉子さんや社会福祉協議会の林嗣郎会長、ホームヘルパーらがお祝いに駆け付け、福島市長が「誕生日おめでとうございます」と顕彰状と花束を手渡すと、一戸さんは「祝ってもらってありがとうございます」と元気にお礼の言葉を述べました。

顕彰状を手にする一戸鉄四郎さん（右から２人目）

華やかな踊りで来場者を魅了した花嵐桜組

華麗な演舞に歓声　フラット夏まつり

７月29日、むらおこし拠点館活性化推進協議会（工藤嘉津彦会長）によるフラット夏まつりが行われ、多数の市民らが祭りを楽しみました。この日は、弘前市のよさこいチーム花嵐桜組による演舞が行われ、ふるさとを表現した華麗な演舞が観衆を魅了しました。また、会場では、ＪＡつがるにしきた女性部による歌と踊りや生バンド演奏、ビンゴゲーム、盆踊りなどさまざまなイベントが行われ、訪れた家族連れらが楽しい１日を過ごしました。

また、昨年に引き続きチャリティーイベントとして「じゃがいも詰め放題」が行われ、参加料全てが東日本大震災義援金として寄付されました。

三新田宵宮まつり賑わう

つがる市中心商店会（有楽町・千代町）連合会（山内信一会長）主催による三新田宵宮まつりが７月22日、23日開催され、訪れた多くの市民らで賑わいました。

同まつりは、昨年、６年ぶりに復活を遂げ、今年は「宵宮前日祭･ひるいち」（22日）と「復活夜店まつり」（23日）と日程を２日間に拡大。歩行者天国となった商店街では、マジックショー、大道芸、少林寺拳法、ダンスの披露や手作り演歌、登山嚙子のステージなど多彩な催しが行われ、大いに盛り上がりました。山内会長は「この活気、元気を来年にもつなげていきたい」と意気込みを話していました。

歩行者天国でストリートダンスを披露

ドライバーに安全運転を呼び掛ける園児たち

しげた保育園児が交通安全呼び掛け

「夏の交通安全県民運動」の一環として７月20日、しげた保育園（工藤敦子園長）の園児34人がつがる警察署とつがる地区交通安全協会稲垣支部と合同で交通安全路上指導を行いました。

園児たちは元気な声で「運転ごくろうさま。安全運転をお願いします」と手作りのマスコット人形とチラシをドライバーに手渡し、交通事故防止を呼び掛けていました。マスコットには「うんてん　きをつけてね」などと園児の手書きメッセージが添えられ、受け取ったドライバーは「ありがとう」と笑顔でお礼を言っていました。

北澤豪さんからプロのサッカー技術学ぶ

市体育協会（成田昭司会長）は、７月29日、岩木川河川公園で元サッカー日本代表の北澤豪さんを講師に招いてサッカー教室を開催し、西北五地区12チームの小学生約180人がプロの技術を間近で学びました。

教室では、北澤さんがパスやトラップの実演を交えて指導し、ドリブル練習では「直線のドリブルはボールを追いかける感じで、カーブの時はタッチ数を増やして自分が先に行く感覚で」とアドバイス。練習を繰り返すことの大切さや試合への心構えなども教わりました。参加者は北澤さんの鮮やかなプレーに感激し、真剣な表情で話を聞きながらサッカーの楽しさを再確認していました。

小学生にパスの技術指導をする北澤さん

やぐらの周りで踊りを楽しむ市民ら

夏の夜に交流の輪　かしわ盆踊り大会

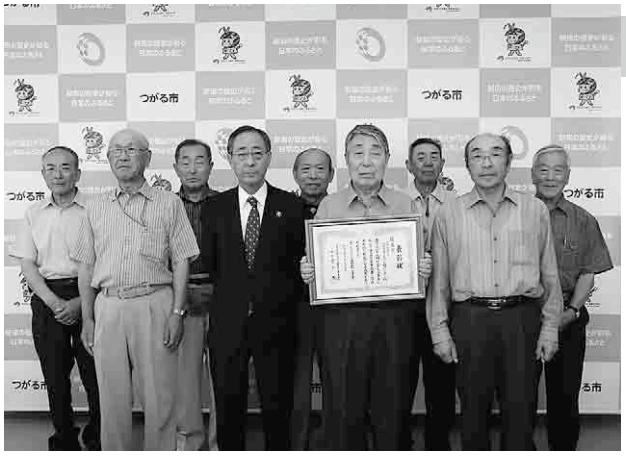
８月18日、イオンモールつがる柏駐車場で「かしわ盆踊り大会」が開催されました。はじめに、成田昭司実行委員長が「盆踊りは交流の輪を広げられる機会でもあります。今日は思う存分踊って心地よい汗を流してください」とあいさつ。やぐらの周りには、大人も子どもも大きな輪をつくり、「かしわ音頭」などに合わせて流し踊りを楽しみました。また、やぐらの上では、市内外から参加した21団体が趣向を凝らした衣装に身を包み、組踊りを披露。最後に柏ネブタ会によるネブタ運行や花火も打ち上げられ、集まった人たちは、賑やかな夏のひとときを過ごしました。

できた!長さ５メートルの「恵方巻き」

地産地消と食の大切さを学んでもらおうと８月２日、市食育推進応援隊（原田ひとみ代表）が松の館で親子料理教室を開催し、親子15人が参加しました。

参加者親子は協力しながら、地元野菜を使ったサラダとすまし汁を調理し、その後、立秋の節分にちなんだ長さ５メートル「恵方巻き」に挑戦。参加者は、ゆっくり息を合わせながらのりを巻き上げ、見事完成させました。牛潟町に帰省中の斎藤滋子さん親子は、「みんなで力を合わせた恵方巻きが完成し、いい記念になりました」と話し、参加者は今年の恵方である北北西に向かい、願いを込めながら恵方巻きを味わいました。

力を合わせてのり巻きを作る参加者



受賞を報告するシルバー人材センターの理事

シルバー人材センターが安全就業全国表彰

市シルバー人材センター（山内清美理事長）が平成24年度安全就業優良賞を受賞し、同センターの理事・監事９人が福島市長へ報告に訪れました。

これは、全国シルバー人材センター事業協会が過去３年間無事故で安全就業に努めたシルバー人材センターを表彰するもので、今年度は19団体が受賞。同センターは、会員約200人で平成21年度から３年間の無事故を達成しました。

報告を受けた福島市長は「受賞おめでとうございます。高齢者が多いなかで大変な努力の結果だと思う」と話すと、山内理事長は「これからも安全第一を心掛けていきます」と話していました。